

活動レポート

道北技術士会

平成20年度総会・研修会を開催

— 北海道開発と技術者 —

— 会社経営から転じて8年間、まちづくりで思うこと —

はじめに

道北技術士会では、今年度の「総会・研修会」を開催しました。当日は、北海道支部より森事務局次長をお迎えし、総勢31名の出席となりました。

以下に、その概要を報告します。

日時 2008年(平成20年)4月19日(土)
14:00~19:00

場所 旭川ターミナルホテル

参加 31名(道北会員30名)

1. 定時総会

総会では、次の議案が全会一致で承認されました。

- (1) 第1号議案 平成19年度事業報告及び決算報告
- (2) 第2号議案 平成20年度事業計画案及び予算案



平成19年度事業報告では、1988年(昭和63年)に設立されてから徐々に会員増加とあいまって徐々に組織的充実が測られてきていること、平成20年度事情計画では、道北地方の地域活性化をどのように進めたらよいか課題である中、社会動向や時宜にあった話題提供、継続研鑽、会員相互の技術向上・情報交換を行って行くことが承認されました。

2. 研修会

演題1: 技術士を巡る最近の動向について

講師: (株)日本技術士会北海道支部

事務局次長 森 隆広 氏(建設/総合監理)

概要:

- (1) 平成19年度技術士試験結果について
- (2) 技術士会北海道支部と技術士センター統合後の会員数
- (3) SCOT事業について
- (4) EMS国際エンジニア登録受付のご案内
- (5) 北海道支部のパンフレット



森氏(左)と土田教授(右)

<北海道支部と旭川高専の協定について>

講師: 旭川高等専門学校電気情報工学科

教授 土田 義之 氏(情報工学/総合監理)

概要(協定内容):

- ① 技術情報共有化から地域産業・産業活動活性化
- ② 旭川高専JABEE認定プログラムとの連携から修習技術者支援
- ③ 小中学校理科教育活性化から科学技術振興協力
- ④ 相互情報の共有から技術移転の推進

演題2：北海道開発と技術者

講師：北海道教育大学生涯学習教育研究センター
准教授 今 尚之 氏

概要：

- ① 土木学会推薦土木資産制度～土木に携わる先達たちが知恵と情熱を注ぎ込んで作り上げた土木施設に光を当て、現在の価値を持たせた。(小樽港北防波堤、土別剣淵鉄道防雪林などが選奨)
- ② 深川冬至～剣淵土別間における育成が疑問視されていた泥炭地での防雪林育成技術を確立した。
 - ・泥炭分解を促進する土壌改良の導入。
 - ・予算要求、計画、施工、研究開発すべてを行い、事業を遂行した。
- ③ 廣井 勇～札幌農学校二期生、明治・大正期日本の土木学会を代表するエンジニア
 - ・廣井の名を高めたのは1897年(明治30年)より工事が始まった小樽築港工事である。
 - ・小樽港の築港に当り、調査と試験を繰り返し、波力測定結果から長らく防波堤設計の用いられる廣井の波力式が結実した。
 - ・廣井の報告書から明治政府は、コンクリートを用いた本格的な外洋築港工事の実施決定。



今 尚之 准教授の講演

演題3：会社経営から転じて8年間、まちづくりで思うこと

講師：当麻町長 菊川 健一 氏

概要：

- ① 会社経営と違う点は、利益は追求しなくて良いが、財政への取組、町で起きたことに対する責任が伴うことである。

- ② 職員の意識改革として、挨拶の徹底、朝礼の実施、ボランティア活動への率先参加などを求めている。
- ③ 財政改革では、町の情勢変化に的確に対応する必要性から、施設の民間委託なども進め、明るい見通しが出てきた。なぜ、施設を無くすかなどを町民によく説明している。
- ④ 町民とのふれあいとして、幼児の誕生日に特産物のバラと絵本をプレゼントしており、満一歳の誕生日には町長自ら家庭へ出向いている。
- ⑤ 農業がさびれると商工業もさびれるとの考えから、米とそ野菜の複合経営の徹底指導している。
米 ～品質・収量で4年連続全道一
でんすけスイカ～日本一の品格
バラ ～夏バラ日本一



菊川 健一 町長の講演

3. 意見交換会

受講した会員から感銘を受けたとの感想が寄せられるほどのご講演を頂いた当麻町長、今准教授も交え、また、新しいメンバーの自己紹介も行い大変な盛り上がりとなりました。

おわりに

研修会を盛り上げていただいた講師及びご支援いただいた北海道支部役員各位にあらためてお礼申し上げます。また、今後も皆さんの協力を得ながら、より充実した活動を実施していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(文責：道北技術士会代表幹事 菅野 哲朗)